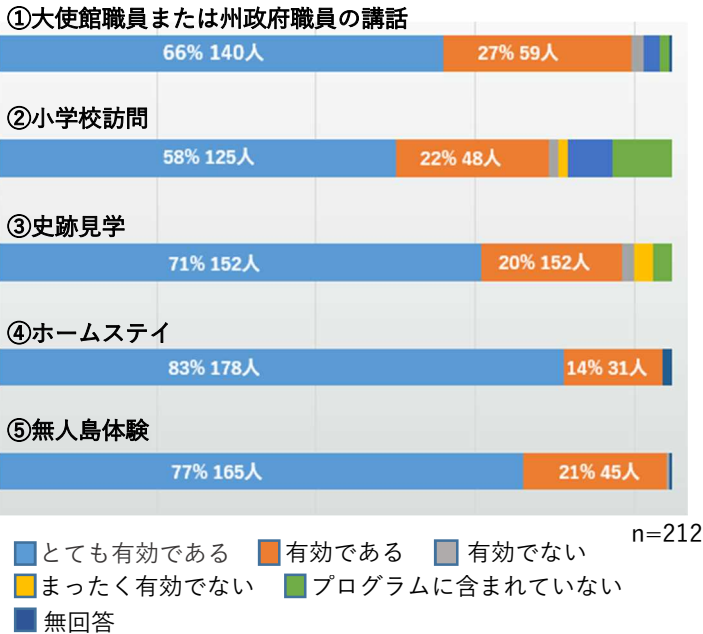


ミクロネシア諸島自然体験交流事業 日本人参加経験者に係るフォローアップ

当機構では、日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成するため、平成14年から当事業を実施してきた。本調査では、事業に参加した日本の小中学生の実態等を把握し、今後の業務及び事業企画の参考とすることを目的として、過年度参加者等を対象にアンケート調査を行った。

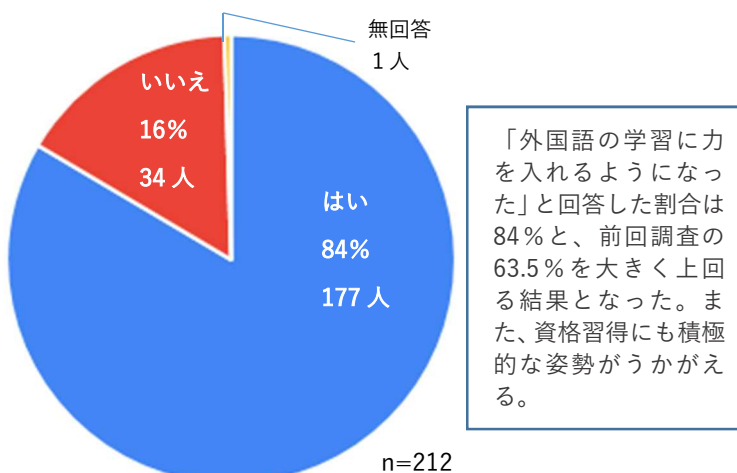
I プログラムの有効性



本事業のプログラム5項目すべてにおいて「とも有効である」と「有効である」を含めると80%に達した。中でも、「ホームステイ」については、83%の参加者がミクロネシアについての理解や交流に「とも有効だった」と回答している。

II 事業参加後の外国語の学習

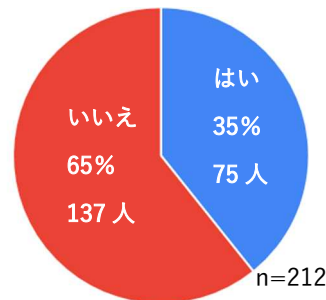
外国語の学習に力を入れるようになったか



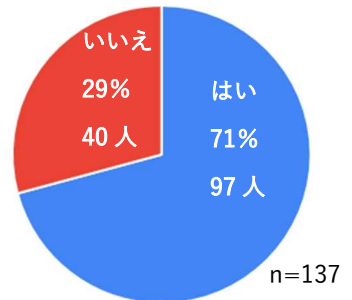
「外国語の学習に力を入れるようになった」と回答した割合は84%と、前回調査の63.5%を大きく上回る結果となった。また、資格習得にも積極的な姿勢がうかがえる。

III 事業参加後の留学経験と参加者との交流

海外留学をしたことがあるか または、する予定があるか

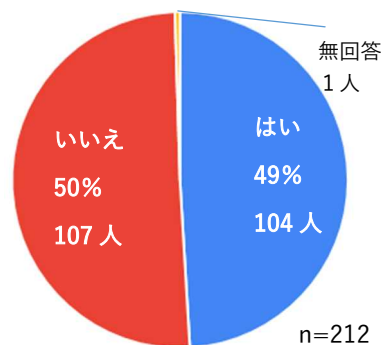


今後留学してみたいと思うか



「海外留学をしたことがある。またはする予定がある」と答えた人は35%だった。また、「いいえ」と回答した人の71%が「今後留学してみたい」と言っている。

本事業と一緒に参加した日本人 と交流を継続しているか



本事業参加者の49%が「本事業と一緒に参加した日本人と交流を継続している」と回答しており、その中の86%が「SNS、メール、または電話で連絡をとっている」、35%が「一緒に参加した日本人と再会した」と回答している。

IV 受入事業におけるホストファミリー(HF)について

ホストファミリー体験後、 自身の子どもに変化はあったか



HF体験後の自身の子供の変化について、71%の家庭が「とてもあった」「あった」と回答した。具体的には、「ミクロネシアに興味を持った」「英語の学習(英会話)に力を入れるようになった」「海外短期留学に行った」などの意見が多かった。

【調査の概要】

平成23年～29年の参加経験者(380人)のうち、住所が判明できた333人を調査対象者とした。その内、13～23歳の212人(男性:95人、女性:117人)から調査票を回収した(回収率63.6%)。調査期間は2020年12月5日(土)～2021年1月8日(金)で、調査対象者に調査への協力依頼文書を郵送し、Webでの回答を依頼した。